

## 五箇山の養蚕

養蚕、つまり蚕を育てる産業は、16世紀以前に始まり、江戸時代（1603–1867）以後には五箇山の主要産業となりました。五箇山の独特の合掌造り（急角度の藁葺き屋根の家屋）は、複数階建ての設計であったこと、そして風通しがよく光もよく差し込んだことから、蚕の幼虫を育てるには最適な環境となりました。蚕の幼虫の餌となる桑は、合掌造りの家々の周囲で育てられました。

五箇山で生産された生糸は城端に運ばれ、加賀藩の保護のもと、絹織物が生産されました。五箇山は稲作には向いていなかったため、養蚕は年貢/地租を支払うための最重要の収入源の1つとなっていました。第二次世界大戦後には、経済発展と化学繊維の使用の広まりのため、養蚕と絹織物の生産は衰退していきました。